

ともに

出逢えてよかった
ありがとう

中間テストを前に…

なぜ勉強するのか？

～喜多川泰「ソバニイルヨ」より～



主人公（隼人）は反抗期の中学生です。隼人の父は人工知能の研究者で、一人で閉じこもって研究をしているため、隼人は友だちから変人の息子といじめられてしまいます。父は「他人の言うことなど気にするな」と言いますが、隼人は父への怒りの気持ちでいっぱいでした。

そのような状態で、父は突然の長期出張でアメリカに出発しました。それも、ガラクタの人工知能ロボット（ユージ）を置いて。そのロボットは優秀で、勉強も教えることができる。

ユージとの出会いで隼人は変わっていく…。

【AIロボットのユージが隼人に教えてくれたこと】

- 勉強しないで困るのは自分の周りにいる大切な人たち。
- やらかなきゃいけない**最低限を超える**。やらかなきゃいけないことを超えたところに何もかもあるのに、その手前でやめてしまうのは本当にもったいないこと。ずっと走ってきたマラソンのゴールを手前数メートルで棄権するようなもの。
- ただ勉強してもつまらない。どうせやるなら、それをやることによって成長できるたくさんのことを手に入れないと、もったいない。だから、**やり方を工夫する方がいい**。量的にも必要最低限を超えるのは大事だけど、質的に超えることもそれ以上に大事。必要最低限を超えない勉強を何時間続けても人生の財産にはならない。勉強だけじゃなくて、**何をやろうとする時も必要最低限を超えようとした時間だけが投資になる**。つまり、将来の財産になる。
- 勉強をしてもしなくても、人間の人生には、いろんなことが起こるよ。ときには逃げ場がなく追い詰められるようなこともあるだろうし、逆境に陥ることもあるだろう…。そんなときに心が負けない、そんな人になるために、**どんなときも心を強く、明るく、美しく保つために勉強はある**。

人権について考えよう 「リスペクト アザーズ」

『リスペクトアザーズ』日本語にすると「他の人のことを尊重しよう」というような意味です。「意地悪しないでみんな仲良くしなくてはいけない」とか、「いじめはダメ」という、そのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしている言葉です。

日本では、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に気を遣っている気がします。また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っている、『冗談』と言ってうやむやにしていることも少なくありません。

日本ではあまりなじみのない『リスペクト アザーズ』の言葉ですが、「いじめはダメ」「悪口はダメ」と言うよりは、しっくりくる言葉だと感じました。自分のことや周りのことを大切にしている素敵な言葉ですね。

自分も、周りの人も大切にしよう！
『*respect others*』
リスペクト アザーズ

2学年Mission①「かっこいい先輩になる」②

「心を整える」 ～長谷部 誠～

①迷った時こそ、難しい道を選ぶ

「難しい道」ほど、自分に多くのものをもたらし、新しい世界が目の前に広がる。ちょっと背伸びをしたら向こう側が見えるような壁では、物足りない。背伸びをしても、ジャンプをしても見えないような壁のほうが、乗り越えた時に新たな世界が広がるし、新たな自分が発見できます。



②愚痴は絶対に言わない

愚痴だけでなく、負の言葉は全て自分で自分の心を乱してしまう。自分の心を強くし、心を正しく整えるためにも愚痴は必要ありません。